中国以外もリスク多様

新興国リスクに立ち向かう シンポジウム特集

講演 アンダーソン・毛利・友常法律事務所 弁護士 森脇 章氏

法整備状況、進出の尺度に

アジアの新興国への進出には、様々な法的リスクが伴う。まず、許認可が非常に多いこと。法律が整備されていても、可能な限り大きな権限が与えられる行政官の裁量が大きくなり、場当たり的な解釈が出来る地域によって結論が異なることが起きる。賄賂もかかる。賄賂回収を狙う意向が必ずあり、海外の取引相手に商品を納入した場合、取引相手は、代金を払わないと代金を払ったことを言わず、利益を受ける場合に付随的な支払いを言いがかりをつけてくる。これがグローバルスタンダードと思った方がいいかもしれない。お人よし」では代金を回収し損ねる恐れがある。

知的財産権侵害は、中国で作られた模倣品が世界に散らばっていることへの対策が重要だ。模倣品出る出る指摘があっという間に広がる。中国はインドネシアなどではスライキが非常に増え、労働法が厳しくなってきている。税務関係でも移転価格、駐在員の個人所得税、国外の株式譲渡益も問題は多い。

こうしたリスクをゼロには できない。起きることを前提にして、起きても収益が得られる戦略を考えてほしい。リスクを恐れず、それを乗り越える別の策を考える。それが勝ちを得る鍵だ。

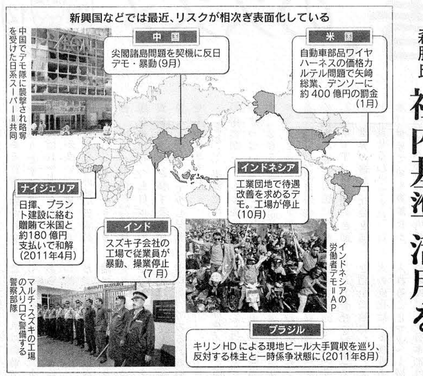
最近、特に関心が高まっているミャンマーの投資についても紹介したい。11月7日には政正式国会議員の進出は、法的リスクが高い。許認可が非常に多いこと。法律が整備されていても、可能な限り大きな権限が与えられる行政官の裁量が大きくなり、場当たり的な解釈が出来る地域によって結論が異なることが起きる。賄賂もかかる。賄賂回収を狙う意向が必ずあり、取引相手に商品を納入した場合、取引相手は、代金を払わないと代金を払ったことを言わず、利益を受ける場合に付随的な支払いを言いがかりをつけてくる。これがグローバルスタンダードと思った方がいいかもしれない。お人よし」では代金を回収し損ねる恐れがある。

知的財産権侵害は、中国で作られた模倣品が世界に散らばっていることへの対策が重要だ。模倣品出る出る指摘があっという間に広がる。中国は インドネシアなどではスライキが非常に増え、労働法が厳しくなってきている。税務関係でも移転価格、駐在員の個人所得税、国外の株式譲渡益も問題は多い。

こうしたリスクをゼロには できない。起きることを前提にして、起きても収益が得られる戦略を考えてほしい。リスクを恐れず、それを乗り越える別の策を考える。それが勝ちを得る鍵だ。

最近、特に関心が高まっているミャンマーの投資についても紹介したい。11月7日には政正式国会議員

もりわき・あきら 1992年慶大法卒。95年アンダーソン・毛利・友常法律事務所入所。2002～08年北京事務所首席代表。中国はじめアジアの法務案件を中心に手がける。



克服への備え 重層的に

新興国リスクに立ち向かう シンポジウム特集

講演 東芝法務部長 島岡 聖也氏

社員教育 世界で徹底

しまおか・せいや 1979年神戸大法卒。東芝入れ。総務部などを経て2007年から西欧の行政法に詳しい。

講演 司会 中国を含む新興国は、一般的にリスクとして意識すべきは何か。ある日本企業が中国で失敗した事例を紹介する。

岡 M&A(併・買収)で、中国を含む新興国は、一つ一つ対応してきた。日産は、「リバイバルプラン」で経営危機を脱した後、持続的な成長に向けて、大きなリスクは何か検討した結果、日本の地震に対する備えを強化した。

日産は、「リバイバルプラン」で経営危機を脱した後、持続的な成長に向けて、大きなリスクは何か検討した結果、日本の地震に対する備えを強化した。

司会 新興国リスクは日本の企業にとってまさに身近に存在している。尖閣諸島国有化後、中国で日本企業に対する破壊行為が起きたり、工場が操業を停止した。実際、新興国での活動ではどのような問題や悩みに直面しているのか。

菅原 新興国での自動車販売台数は昨年、この数年は後を追い、日産自動車は2016年度までにグローバルシェア8%を取るとい う中期計画を立てた。新興国の自動車メーカーが台頭する中で、日産は、ゴーン氏のカリスマ性に引っぱられるようにどんどん先へ進んでいくイメージがあるかもしれない。実は、そうではない。

ゴーン氏は、現地の生産を拡大するためにはどうしたらいいかを考えた。そこで、人材問題や現地の意識、ものづくりの実力に加え、不事や政治ストライキ、暴動などもある。次にサプライチェーンを全体で管理しなければならない。直接関係のある次にサプライチェーンだけでなくサプライチェーン全体を管理しなければならない。非常に長期的な問題だ。上流に行くほど接管理できる。そこで人材問題や現意識が高まっている。

ヨーロッパの化学物質規制(REACH規制)といっても苦労している。水銀や鉛、クロムなど重金属は図面には「不使用のこと」と書いてある。本当に使っていないかチェックが必要だ。今までは、ルールに従って作っていたが、そこで人材問題や現意識が高まっている。

日産の評判に直結する。

・双継続的な働きかけが必要だ。

・欧州の評判が高まっている。

・ミネラル(鉱物)対策で大変な苦労をしている。

・サプライチェーンについては、提携先のルールと共通の社会的責任に関する ガイドラインを作成して配布し、順守をお願いしている。特に鉱物資源(コンフリクト・ミネラル)対策で大変な苦労をしている。

・サプライチェーンについては、提携先のルールと共通の社会的責任に関する ガイドラインを作成して配布し、順守をお願いしている。

・ミネラル(鉱物